2026年10月1日

各 位

会 社 名　株 式 会 社 ト ワ ラ イ ズ
代表者名　代 表 取 締 役 社 長　古 山　英 明
（コード：267A TOKYO PRO Market）
問合せ先　専務取締役経営統括部長 髙田 裕文
（TEL 0859-35-1714）

（訂正）「2026年７月期 決算短信〔日本基準〕(連結)」の一部訂正について

当社は、2026年９月14日に公表しました「2026年７月期 決算短信〔日本基準〕(連結)」添付資料について、記載の内容の一部に訂正すべき事項がありましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

１．訂正理由

「2026 年７月期 決算短信〔日本基準〕(連結)」の公表後に、添付資料の「経営成績等の概況」及び「連結キャッシュ・フロー計算書」に訂正すべき事項が判明したため、訂正を行うものです。

２．訂正内容

訂正箇所は以下のとおりです。訂正箇所には下線を付して表示しております。

添付資料２ページ

１．経営成績等の概況

(1) 当期の経営成績の概況

①信販事業

【訂正前】

収益基盤の確立を目的とした事業戦略の一環として、主力のショッピングクレジット事業においては、収益性の高い領域への営業活動を強化し、成長領域への経営資源の集中を進めてまいりました。また、与信審査体制を強化するとともに、スコアリングモデルの活用により審査スピードと審査精度の向上に取り組みました。さらに、ホームページの刷新を契機として、デジタルマーケティング施策を推進し、PULL型による効率的な顧客獲得プロセスの構築に取り組むことで、新規顧客獲得の拡大に努めてまいりました。

この結果、営業収益は3,689百万円（前期比0.6%増加）、セグメント利益は940百万円（前期比88.0%増加）となりました。

【訂正後】

収益基盤の確立を目的とした事業戦略の一環として、主力のショッピングクレジット事業においては、収益性の高い領域への営業活動を強化し、成長領域への経営資源の集中を進めてまいりました。また、与信審査体制を強化するとともに、スコアリングモデルの活用により審査スピードと審査精度の向上に取り組みました。さらに、ホームページの刷新を契機として、デジタルマーケティング施策を推進し、PULL型による効率的な顧客獲得プロセスの構築に取り組むことで、新規顧客獲得の拡大に努めてまいりました。

この結果、営業収益は3,689百万円（前期比0.6%増加）、セグメント利益は938百万円（前期比87.8%増加）となりました。

添付資料 12 ページ

（4）連結キャッシュ・フロー計算書

【訂正前】

（単位：百万円）

	前連結会計年度 （自　2024年８月１日 至　2025年７月31日）	当連結会計年度 （自　2025年８月１日 至　2026年７月31日）
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	－	△30
有形固定資産の取得による支出	△18	△30
有形固定資産の売却による収入	4	－
無形固定資産の取得による支出	△12	△8
投資有価証券の取得による支出	－	△266
敷金及び保証金の差入による支出	△1	△15
敷金及び保証金の回収による収入	4	1
その他	0	－
投資活動によるキャッシュ・フロー	△23	△339

【訂正後】

（単位：百万円）

	前連結会計年度 （自　2024年８月１日 至　2025年７月31日）	当連結会計年度 （自　2025年８月１日 至　2026年７月31日）
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	－	△30
有形固定資産の取得による支出	△18	△30
有形固定資産の売却による収入	4	－
無形固定資産の取得による支出	△12	△8
投資有価証券の取得による支出	－	△266
投資有価証券の売却による収入	－	9
敷金及び保証金の差入による支出	△1	△15
敷金及び保証金の回収による収入	4	1
その他	0	－
投資活動によるキャッシュ・フロー	△23	△339

以 上